

令和6年9月2日
財 務 局

令和6年度東京グリーン・ブルーボンド対象事業の決定について

令和6年度に発行する東京グリーン・ブルーボンドについて、調達資金の充当対象事業を下記のとおり決定しましたので、お知らせいたします。

記

1 新規の支出への充当分

No	環境事業区分 (別添参照)	事業名	想定される 環境効果	充当予定額 (百万円)
グリーンプロジェクト				
1	1. エネルギーの脱炭素化と 持続可能な資源利用による ゼロエミッションの実現	都有施設の改築・改修	■太陽光発電設備の想定発電量 (年計) 4,099,897 kWh	5,688
	2. 生物多様性の恵みを受け 続けられる、自然と共生す る豊かな社会の実現		■緑化面積の拡大 3,625.52 m ²	
2	1. エネルギーの脱炭素化と 持続可能な資源利用による	都有施設・道路の照明の LED化	■エネルギー削減量 (年計) 6,441,100 kWh	806
3	ゼロエミッションの実現	都立学校の環境改善（ゼ ロエミッション化の推 進）	■太陽光発電設備の想定発電量 (年計) 951,679 kWh	364
			■エネルギー削減量 (年計) 2,794,440 kWh	
4		再生可能エネルギーの活 用に向けた蓄電池設置事 業	■蓄電池の出力 750 kW	189

No	環境事業区分 (別添参照)	事業名	想定される 環境効果	充当予定額 (百万円)
5	1. エネルギーの脱炭素化と 持続可能な資源利用による ゼロエミッションの実現	自転車走行空間の整備	■整備延長 サイクリングルート 11.5 km 整備 (R6 年度末まで) 自転車通行空間 50.7 km 整備 (R12 年度末まで)	6
6		高潮防御施設の整備	■整備延長 防潮堤 0.1 km	240
7		土砂災害対策施設・海岸 保全施設の整備	■整備箇所数 砂防施設 53 箇所 海岸保全施設 4 箇所 急傾斜地崩壊対策 15 箇所	400
8		東京港・島しょ海岸保全 施設整備事業	■整備規模及び施設数 東京港の防潮堤 60.4 km 整備 東京港の水門 15 施設整備 東京港の内部護岸 47.9 km 整備 東京港の排水機場 2 施設整備 (いずれも R13 年度末まで) 伊豆諸島の海岸保全施設 0.3 km 整備 (R6 年度末まで)	802

No	環境事業区分 (別添参照)	事業名	想定される 環境効果	充当予定額 (百万円)
9	1. エネルギーの脱炭素化と 持続可能な資源利用による ゼロエミッションの実現	ゼロエミッション・ビークル (ZEV) の導入	■従来車両から ZEV に更新することでの CO ₂ 等排出削減率 PHV CO ₂ (二酸化炭素) 25.6 % EV バイク NO _x (窒素酸化物) 100 % CO (一酸化炭素) 100 % HC (炭化水素) 100 %	20
10		都府施設の ZEB 化推進	■エネルギー削減量 799,972 kWh	144
11		水道施設の脱炭素化	■想定年間発電量 497,844 kWh	220
12		下水道事業におけるエネルギー・地球温暖化対策	■温室効果ガス削減量 (能力値) 3.3 万 t-CO ₂ /5 年 (R7 年度末まで)	2,417
13		合流式下水道の改善	■貯留施設等の貯留量 175 万 m ³ (R7 年度末まで)	241
14		浸水対策	■下水道 50 ミリ浸水解消率 73 % (R7 年度末まで)	342
15	2. 生物多様性の恵みを受け 続けられる、自然と共生する 豊かな社会の実現	海上公園の整備 (海の森公園整備事業)	■整備面積 海の森公園 (森づくりエリア) 約 60 ha 整備	320
16	3. 都民の安全・健康が確保 された、より良質な都市環 境の実現	外濠の水辺再生事業	■水面の面積 8.3 ha (2030 年代半ばまで)	15
17		環境にやさしい都営バスの導入	■排出ガス規制対象物質削減率 NO _x (窒素酸化物) 80 % PM (粒子状物質) 63 %	1,600
ブループロジェクト				
18	2. 生物多様性の恵みを受け 続けられる、自然と共生する 豊かな社会の実現	東京港ブルーカーボン整備事業	■藻場創出面積 (年計) 130 m ²	23
合計				13,837

2 既存の支出のリファイナンスへの充当分（令和元年度東京グリーンボンド（リファイナンス分））

No	環境事業区分 (別添参照)	事業名	環境効果	経過 年数	残存許 可年数 ※1	リファイナンス額 (百万円)
1	1. エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現	都有施設の改築・改修	■太陽光発電設備の想定発電量 (年計) 568,387 kWh	5年	25年	2,868
	2. 生物多様性の恵みを受け続けられる、自然と共生する豊かな社会の実現		■緑化面積の拡大 4,513 m ²			
2	1. エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現	都有施設・道路の照明のLED化	■エネルギー削減量 (年計) 6,856,946 kWh	5年	25年	1,677
3	源利用によるゼロエミッションの実現	自転車走行空間の整備	■整備延長 サイクリングルート 7.5 km 自転車走行空間 15.7km (いずれも R2 年度完成)	5年	25年	260
4		高潮防御施設の整備	■整備延長 防潮堤 0.17 km 護岸 0.15 km	5年	25年	346
5		東京港・島しょ海岸保全施設整備事業	■整備規模及び施設数 東京港の防潮堤 60.3 km 整備 東京港の水門 17 施設整備 (いずれも R 元年度完成) 東京港の内部護岸 45.6 km 整備 東京港の排水機場 4 施設整備 (いずれも R3 年度完成)	5年	25年	952

No	環境事業区分 (別添参照)	事業名	環境効果	経過 年数	残存許 可年数 ※1	リファイナンス額 (百万円)
			神津島港海岸の離岸堤 (潜堤) 0.3 km 整備 (R 元年度完成)			
6		水道施設の脱炭素化 ※2	■エネルギー削減量 (年計) 2,200,000 kWh	5年	25年	60
合計						6,163

※1 残存許可年数とは、地方債発行時に総務省へ届出を行った許可（償還）年限（当該地方債を財源として建設しようとする公共施設又は公用施設の耐用年数の範囲内）から資産の経過年数を引いたもの

※2 令和元年度東京グリーンボンドで「上下水道施設の省エネ化」としていたものの一部

別添：東京グリーン・ブルーボンドにおける環境事業区分

【問い合わせ先】
財務局主計部公債課
直通 03-5388-2682

東京グリーン・ブルーボンドにおける環境事業区分

東京都環境基本計画（2022年9月）に基づき設定した環境事業区分及び当該環境事業区分ごとの東京グリーン・ブルーボンドの対象事業例と想定される環境効果は下表のとおり。

No	環境事業区分	対象事業の例示	想定される環境効果
1	エネルギーの脱炭素化と持続可能な資源利用によるゼロエミッションの実現	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業所における温室効果ガス削減 ■ 省エネルギー対策・エネルギーマネジメントの推進 ■ ゼロエミッションビークルの普及促進 ■ 次世代交通導入、自転車利用促進 ■ 再生可能エネルギー等（太陽光、地中熱、下水熱及び水素等）利用率向上 ■ 資源ロスの削減、環境に優しい素材の利用 ■ 3R、廃棄物の循環利用促進 ■ 環境負荷の低減に役立つ資材の使用促進 ■ 都市の気温上昇に対する適応 ■ 洪水や自然災害への対応 ■ 道路整備（遮熱性・保水性対策） ■ 水質汚染の軽減、地下水の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ■ CO₂排出量の低減 ■ エネルギー使用量の削減 ■ 再生可能エネルギー利用量の増加 ■ 廃棄物排出量の低減 ■ 廃棄物循環量の増加 ■ 気温上昇に対する適応能力の向上 ■ 洪水や津波、その他の自然災害への対応能力の向上 ■ 遮熱性・保水性の向上 ■ 水質汚染の改善
2	生物多様性の恵みを受け続けられる、自然と共生する豊かな社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ■ 緑の創出・保全（公園整備、都市の緑化推進及び森林整備等） ■ 生物多様性の保全（海上公園の干潟整備等） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 緑地面積の拡大 ■ 整備面積の拡大
3	都民の安全・健康が確保された、より良質な都市環境の実現	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大気汚染の軽減 ■ 土壌汚染対策の推進 ■ 有害廃棄物等の処理促進 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大気・土壌汚染の改善 ■ CO₂排出量の低減 ■ 廃棄物循環量の増加